

リベラル・スタディ

科目責任者 河 村 亨

学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

科目名「リベラル・スタディ」は「リベラル・アーツ (liberal arts)」に由来する。「リベラル・アーツ」とは、12世紀に、ヨーロッパで高等教育制度として大学が誕生したときに、知識人として最低限学ぶべく根底に据えられた学問群のことで、言語に関する文法学、論理学、修辞学の三科、自然に関する天文学、算術、幾何学、音楽の四科、合わせて七科からなり、これらは「自由七科」とよばれた。日本の大学でも戦後の大学教育において「一般教養」という言葉で制度化されたものはこの「リベラル・アーツ」を出発点としていた。現代では「学士課程において、人文科学、社会科学、自然科学の基礎分野を横断的に教育する教育プログラム」とされている。皆さんは医学の専門家となることは勿論、幅広い教養を備えた知識人になることが要求されている。そこで医学部初年次においては、長期的な視野に立ち、生涯にわたって学び続けて医療人としての基盤形成に繋がるようなテーマを、本科目「リベラル・スタディ」あるいは「人文・自然選択Ⅰ・Ⅱ」において展開している。個々に興味を喚起された分野を自由に学ぶことで、優れた医療人としての基盤が形成されることを期待する。

II. 担当教員

各担当教員

III. 一般学習目標

- 1) 教養を深める。
- 2) 社会・自然に対する幅広い視野を醸成する。
- 3) 論理的思考能力を伸ばす。
- 4) 持続的な自己学習の習慣を身につけ、問題解決能力を伸長させる。

IV. 学修の到達目標

- 1) 幅広い教養を深める。
- 2) 論理的な思考法を理解する。
- 3) 調査・研究に参画し、研究の現場（最先端）に触れる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	8	31	水	4	各担当者の講義テーマによる。詳細は後日連絡する。	各 担 当 者	1～6 (担当者による)
2	9	7	水	4			1～6 (担当者による)
3		14	水	4			1～6 (担当者による)
4	10	5	水	4			1～6 (担当者による)
5		12	水	4			1～6 (担当者による)
6		19	水	4			1～6 (担当者による)

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各担当者の判断によるが、授業・実習への取り組み状況、またレポート、課題などの提出物、これらを総合的に判断して評価を行う。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

各担当者から指示される。

VIII. 質問への対応方法

各担当者から指示される。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各担当者から指示される。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

各担当者から指示される。

その他：事後学習として授業の内容をまとめること（所要時間の目安：20分）

XII. コアカリ記号・番号

A-9-1)